

「もっと響く指導」に するために！ 生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を伝えてきた「生きたデータの徹底活用」。さらに響く指導を実現するために、現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 3年生 夏休み前の意識付け



「生きたデータ」2011年6月号を参考に、
進路志望検討会に臨んだところ……

進路志望検討会の目的と日々の指導のつながりを整理するシート（抜粋）



学年目標 一つ上、一つ先の目標を生徒が最後まで貫けるようにする

7月進路志望検討会の狙い 夏休みに一人ひとりの生徒が取り組むべきことを学年団で明らかにし、各担任経由で生徒と共有できるようにする

④全体で検討する項目

1 志望校設定の成熟度を把握する

生徒の将来の目標に合致した志望校を設定できているか確認し、その志望校がしっかり考え抜かれた末の選択になっているか、生徒との面談や学力動向を基に分析する

⑤担任がチェックする項目

資料	入試科目一覧、生徒記入の志望調査票 など	相談先
<input checked="" type="checkbox"/>	生徒の将来の志望と希望進路が一致しているか。よりふさわしい進路を見逃していないか	進路指導部
<input checked="" type="checkbox"/>	学部の志望順位や難易度の順位は適正か（例えば第1志望が工学部なのに、第2志望が医学部になっていないかなど）	進路指導部
<input checked="" type="checkbox"/>	志望校の入試科目と生徒の履修歴にミスマッチはないか	進路指導部
<input checked="" type="checkbox"/>	最終チェック 志望校は生徒が考え抜いた大学になっているか	

私の狙い

生徒の志望や夏休みの勉強法について、進路志望検討会で他の先生方からアドバイスを得たかった

取り組み内容

検討会の2週間前の6月末、生徒に志望や勉強方針を確認して、検討会に臨んだ

感じた課題

そもそも自分が把握した志望は生徒の本音だったのか、また先生方にアドバイスいただくポイントを十分に絞りきれなかったのか、疑問が残った

「もっと響く指導」のポイント

①

担任が主軸になりながら
学年団で多面的に生徒を捉える



前任校で初めて3年生を担当したのですが、生徒把握の面で自分の力不足を感じました。2011年6月号で紹介されたシート（上図）を参考に、生徒の志望や学習状況を確認して進路志望検討会に臨んだのですが、「担任が説明した現状認識を承認する」という形式的な流れになってしまい、自分の指導に不安が残ったままでした。



本校の進路志望検討会では、関係する教師全員が対等の立場で参加しますが、効率的に検討を行うためには、担任が個々の生徒の課題を出来るだけ明確にしておくことが重要です。「この生徒は入学時から志望が変わっている」「〇〇大の2次試験に対応する力を

付けられるか」など、担任が気になることを事前に洗い出しておきたいですね。



そういう意味では、事前の準備が十分ではなかった気がします。「6月の時点での生徒の志望、学力はこうである」という現状認識だけでなく、もっと大きな視点で「この生徒はこんな志望だったはず」「これは生徒の未来のために適切な志望変更か」と、可能性を前向きに語ってみるべきでした。



7月の進路志望検討会の狙いは、志望校を設定し、第1志望合格に向けた生徒の学習方策と、学校全体としての指導戦略を明確にすることです。生徒がやる気を出している時期だからこそ、担任として強気の後押しも大切です。

若手先生代表

関東地方の公立高校に勤務。13年度、2年度目の3学年担任。



T先生(30代)

ベテラン先生代表

中国地方の公立高校に勤務。各学年の主任経験豊富。



N先生(40代)

*このコーナーは、高校の先生方（今回は関東地方と中国地方）との検討会の内容を基に構成しています。



前任校では、進路志望検討会は担任の報告の承認の場であり、他の先生方からアドバイスをいただくことは少なかったんです。同期で他校に勤務する教師の中には、進路志望検討会を経験したことがない者もいます。あるべき姿が分かりません。



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

●生徒の夢をかなえるための検討会のチェックポイント

- ・ 努力や頑張りを通して本人の成長を促せる志望設定であり、大学受験であるようにする
- ・ どこまで伸びるのかの見極めと、目標学力に到達させるための方策を考える場とする
- ・ 志望の変化を比較検討し、変化の有無にかかわらず、生徒が目指すべき進学先であるようにする

生徒の可能性を高めるための志望検討シート



名前		志望先	志望に関する担任の理解	志望実現のための指導ポイント
A	4月			<p>担任が分析しておくポイントの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自分の知っている限りで、志望先を狭く考えていないか ・ 現在の学力レベルで志望を低く考えていないか ・ 専攻したい分野と、教科学力のレベルがかけ離れていないか
	7月			
B	4月			
	7月			

「もっと響く指導」のために改訂すると...

データを生かす指導の流れ

志望先が本人にとって適切か、志望先に合った指導ポイントを担任自身が把握できているかを、複数の教師でチェックし、生徒に還元する。

- 1 学級担任が、一人ひとりの生徒について志望を一覧にする。4月以降に志望の変化があった生徒は、その理由が適切か、背景と担任所見を記入。
- 2 記入したシートを、会議前に配付。各生徒の情報を出し合い、志望の妥当性や学力の定着度、伸びの見込みなどを踏まえて、夏休みの指導方針を確認する。
- 3 夏休み前の面談などで個々の生徒に学習の進め方の指導や志望の確認を行う。



確かに、上図のように「担任の理解」と「志望実現のための指導ポイント」をまず書き出しておくことで、担任としてのかかわり方は大きく違ってきますね。



かつて私は先輩の先生から、「進路志望検討会での1人の教師の発言で、生徒のその後の人生が大きく変わることがある」と教えられました。誰が生徒の人生を変えることになるか分からないからこそ、進路志望検討会では参加する教師全員が当

事者意識を持ち、集団の力で生徒を理解していくことが求められます。私は若手の先生には「先生の後押しが生徒の可能性を大きく高めるだけでなく、ベテランの先生から指導の根拠を学べる場でもありませんから、指導力の伝承の場だという気概を持って参加してください」とお願いしています。T先生にも、自校のベテランの先生方のサポートを受けながら、生徒の志望の納得度と合格力、そして自分の担任力を高めるつもりで意見をぶつけてほしいと思います。

夏休み前から学習内容計画シートを使ったのですが、計画通りに進んだかどうかばかりに生徒の関心が向いてしまいました。計画倒れに終わった生徒は、後悔の念を抱えて夏休みを終えてしまいました。



「生きたデータ」2011年6月号を参考に、生徒に学習計画を立てさせたところ……

「もっと響く指導」のポイント

②

進研模試結果を活用した弱点克服のための学習内容計画シート

自分の弱点	克服のための計画	月/日	午前		午後		1日の学習の目標		達成状況 (○△×)
			9	10	11	12	1	2	
② 巻頭の中でも 三角関数と 数列が分から ない	③ 数学の教科書の中から 三角関数と 数列の基礎問 題を全て解く	④	9	10	11	12	数学	教科書 P0~P10	
			9	10	11	12	英語	問題集 P0~P10	
			9	10	11	12	数学	教科書 P0~P10	
			9	10	11	12	国語	漢字問題集 P0	
	2週目		9	10	11	12			

① 参考 進研模試帳票の裏面

数1 2 1次必須 難点/得意 得意/得意 得意/得意

1方程式と不等式 25/40

2図形と計量 場合 32/40

3平面図形 12/30

4三角関数 指数 12/30

5数列 極限 6/30

6ベクトル 6/30

7数列 6/30

8数論 6/30

9幾何 6/30

10確率 6/30

11総合 6/30

12総合 6/30

●…あなたの得点率
□…目標得点率 ○…得意分野
▼…対策が必要な分野

達成状況には、学習時間が達成できたかではなく、目標に掲げている学習内容がきちんと理解できているかで○△×を記入する

私の狙い

受験本番に向けて、生徒に孤独に耐え、1人で学ぶ力を付けさせたいと考えた

取り組み内容

計画シートを生徒に記入させ、夏休み前から、学習計画を立てて実行、達成状況を振り返らせた

感じた課題

失敗する経験も想定しておきながら、計画が破綻した生徒が落胆し、自己肯定感を低下させていった。その回復までに時間が掛かってしまった

秋以降に必要な自学自習力を身に付けさせながら、自分の学習状況を振り返らせながら、

進路志望検討会を経て夏休みに入ると、生徒は夏の自学自習に取り組みます。私は、夏の間1人で学ぶ力を付けさせたいと思い、2011年6月号で紹介されていたような学習計画シート(上図)を用いた指導を7月上旬に行いました。しかし、もともと計画性のあった生徒はある程度うまくいくものの、多くの生徒は計画倒れに終わり、2学期になってから面談などで一人ひとりの学習計画をチェックすることが必要でした。

自学自習力が本当に必要になるのは、夏休みよりも、2次試験対策が始まる秋以降です。むしろ夏休みは「失敗するかもしれない」という気持ちで、学習の量と質の両面から計画を見直

し、修正する習慣を付けさせたい時期です。その意味では、一見順調に計画をこなした生徒もこなすことに満足し、質が担保されていなかったかもしれません。

計画をこなすことが出来たかどうか重要ではなく、計画が目的に対して妥当であり、弱点を克服し、力を付けるための自分なりの学習スタイルになっているかどうか重要ですね。

夏休みだから1人で勉強しなさいといきなり手放すのではなく、夏休みを掛けて働き掛け、1人で学ぶ力を付けさせるという意識の方がよいと思います。そうであれば、長い夏休み、担任として学習の進捗をチェックする機会も必要になります。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます!

生徒指導・進路指導ツール集

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご利用ください!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2007年4月号「受験生にするための3年生1学期の意識付け」

2008年6月号「受験へ向けた3年生保護者への意識付け」

2010年4月号「3年生1学期の「受験生への切り替え」と自立の一步となる志望校設定」など



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」改訂案

●秋以降、孤独に耐え、ねばり強く受験勉強に向かうための基盤を7月上旬につくる

- ・出来なかったのには原因がある。課題を修正して、克服する自律力を高める
- ・3年の夏だからといってあれもこれもでは破綻する。優先順位をつけて学習する勇気を持たせる
- ・生徒の独りよがりにならないよう、担任がチェックし、成長を褒める材料を得る

進捗を確認しながら弱点克服に取り組む学習計画シート



自分の弱点	弱点克服のための計画	月/日	学習内容	1日の学習時間	集中できた時間	1日の振り返り (弱点克服につながっているか)
		/	予定			
		/	修正した予定			
		/	予定			
		/	修正した予定			
		/	予定			
		/	修正した予定			

記入の際のポイント

- ・1日の中で複数の教科を配分したり、1つの教科の中でも分野を調整したりすることを意識させる
- ・振り返りは1日単位だけではなく、1週間単位など少し長めのスパンでさせてもよい

データを生かす指導の流れ

秋以降に1人で学習できるようになるために、夏休みはその試行期間と位置付け、学習計画の見直しを肯定的に捉える。

1 夏休み中に、効果的に学習計画立案、実行が出来るように、夏休み前に、上記のデータを用いて、計画立案と実行をさせる。

2 弱点克服という最優先テーマを常に意識させ、時間の使い方や教科バランスについて具体的にチェックし、修正させる。

3 夏休み中もこのサイクルを続け、登校日や課外補習の日などに学習状況を担任と確認し、計画を随時修正させる。

「もっと響く指導」のために改訂すると...



夏休みの学習の過程でも、生徒に学習量や質の検証と、計画の修正を行わせるわけですね。



秋以降、限りある時間の中で、必要な内容を見定め、具体的な学習計画に落としとして学習していく力を、生徒は夏休みを掛けて試行錯誤しながら身に付けると考えるとよいでしょう。計画的な学習習慣が身に付いている生徒にも、「計画がうまくいったかどうか」ではなく、その計画によって自分の弱点が狙い通りに克服できたかまで考えさせるのです。



自分の弱点から学習計画を立て、その学習によって弱点が克服できているかを確認しながら、次の計画を立てるというサイクルですね。



忘れてはいけないのは、失敗を過度に引きずる生徒は、自己肯定感が低下し、秋以降力を出し切れないおそれがあることです。そうした生徒には学習計画シートを見ながら、「計画で修正できたのはどこか」「どの教科で集中できたのか」を面談で明らかにし、出来ている部分を褒めてあげましょう。